

1. **BOOK** 1世紀後半から2世紀初めにギリシア語で書かれたキリスト教の聖典。語義：神と人間との新しい契約の書。 1
2. 『新約聖書』中のマタイ伝・マルコ伝・ルカ伝・ヨハネ伝。 2
3. ユダヤ教のヤハウェ観が、怒り、裁く「正義の神」とされたのに対するキリスト教のヤハウェ観。悔い改める人を許し救う神。 3
4. キリスト教の説く、自己犠牲的で下降的な「与える愛」。隣人愛も。 4
5. キリスト教の説く、人と人との間の愛。これもアガペー。関連語：エロース、フィーリア、慈悲、仁 5
6. **PERSON** 1世紀ヘブライ人の伝道者。ヘブライ人以外の民族にキリスト教を伝道した「異邦人（へ）の使徒」。 6
7. 生き方・考え方を根本的に変える宗教的体験。復活したイエスの声を聞いたパウロが、キリスト教徒になったことなど。関連語：改心は「反省して心を入れ替えること」 7
8. 民族を越えた世界的な宗教。 ex. 仏教、イスラーム教 関連語：民族宗教 ex. ユダヤ教、ヒンドゥー教 8
9. 自己愛などから神の意志に背くこと。人間が肉体をもつ存在であることに由来する弱さ。英語の sin。 9
10. 全人類の原罪は、イエスの苦しみと死によって償われたとする考え方。それに示された神の愛と福音を信じることによってのみ人は義とされると説いた。関連事項：ルターの信仰義認説 10
11. パウロの説いた信仰・希望・愛（これが中心）を徳とする考え方。関連事項：ギリシア四元徳（知恵・勇気・節制・正義） 11
12. 4・5世紀、北アフリカのローマ人教父（キリスト教会史上最重要）。ギリシア（特にプラトン）哲学を援用して、カトリックの教義を確立。 12
13. キリスト教会の神学的著作家や精神的指導者。教義の確立に貢献。 13
14. 肉体と結びついた自由意思により「悪をなさざるをえない」人間の原罪を免れるのは、これを信じることでしか不可能。 14
15. 「地上の国」における「神の国」（の現れである）が教会であると説いて、アウグスティヌスがキリスト教史において果たした大きな役割。 15
16. **BOOK** アウグスティヌスの主著で、世界史を人類の原罪と神の恩寵で説明したもの。 16
17. **BOOK** アウグスティヌスの主著で、異教からの回心とそれに至る魂の遍歴（青年時代は欲望のまま生きていた）を告白したもの。神の恩寵に感謝した讃美録。 17
18. 中世のキリスト教神学を学び、教えるための哲学的態度。神学を上位としたため「哲学は神学の侍女（婢＜はしため＞）」とされた。 18
19. **PERSON** 13世紀、イタリアのスコラ学者で、ギリシア（特にアリストテレス）哲学を援用してスコラ学を大成。 19
20. **BOOK** スコラ学を大成したトマス＝アキナスの主著。 20

T.Q. 「ユダヤ教とキリスト教の相違点とは？」

T.A.

ユダヤ教は選民思想を重視する民族宗教だが、キリスト教は、アガペー、隣人愛など民族を越えた全ての人に愛を与えることを重視する世界宗教である。唯一神ヤハウェのとらえ方も異なっており、ユダヤ教では裁きと怒りの神・正義の神と恐れられていたが、キリスト教では悔い改める人を許し救う愛の神としてとらえられている。